



よう太のワーク 「川ざらし」

／掲載日：2015年1月23日／紙面：山陽新聞朝刊／掲載：1ページ

康正さん(49)が自宅前の横野川へ。2人は繊維を軟らかくするため石灰を入れて煮た東北産ミツマタ約70kgを、膝下まで水に漬かりながら約1時間半かけてもみ洗いし、あくを抜いては木箱に詰めた。

「川ざらし」 寒さに耐え

津山・横野和紙作り

岡山県郷土伝統的工芸品「横野和紙」の産地・津山市上横野地区で22日朝、原料のミツマタを清流に浸して洗う「川ざらし」が今年初めて行われた。生産者は身を切るような冷たい流れの中、作業に精を出した。

市重要無形文化財で和紙職人上田繁男さん(72)方では、妻順子さん(69)と長男

康正さん。川ざらしをしたミツマタは機械で砕いた後、粘り気のあるトロロアオイの根をすって混ぜ、紙をすく。

横野和紙は古文書の修復や銅版画などに使われ、ドイツにも輸出される。最盛期に8戸あった生産者は、後継者難で現在、上田さん方のみ。金箔を挟んで保存する箔合紙を全国で唯一生産しているといい、繁男さんは「日本の伝統文化を絶やさないために、しっかり守り続けたい」と話している。(竹久祐樹)



冷たい水に漬かりながらミツマタをもみ洗いする上田さん親子

●記事からさがそう。

- ①どこで？
()
- ②いつ？
()
- ③なにを(行ったの)？
()
- ④だれが行ったの？
()
- ⑤どのように行ったの？
()

⑤なぜこの時期に行うの？

()

)

)

解答例

①どこで？
((岡山県郷土伝統工芸品「横野和紙」の産地・) 津山市上横野地区で)

②いつ？
(1月22日朝)

③なにを(行ったの)？
((原料のミツマタを清流に浸して洗う)「川ざらし」を行った)

④だれが行ったの？
((市重要無形文化財で和紙職人上田繁男さん方の)妻上田順子さんと長男康正さんが)

⑤どのように行ったの？
((繊維を軟らかくするため石灰を入れて煮た) 県北産ミツマタ約70kgを、膝下まで水に浸かりながら約1時間半かけてもみ洗いし、あくを抜いては木箱に詰めた)

「川ざらし」 寒さに耐え

津山・横野和紙作り

康正さん(49)が自宅前の横野川へ。2人は繊維を軟らかくするため石灰を入れて煮た県北産ミツマタ約70kgを、膝下まで水に漬かりながら約1時間半かけてもみ洗いし、あくを抜いては木箱に詰めた。

水温の低い冬場は雑菌が少なく、上質な和紙作りに最適な環境とされ、「手間を惜しんで本物の和紙は作れない」と



康正さん。川ざらしをしたミツマタは機械で砕いた後、粘り気のあるトロロアオイの根をすって混ぜ、紙をすく。

横野和紙は古文書の修復や銅版画などに使われ、ドイツにも輸出される。最盛期に8戸あった生産者は、後継者難で現

在、上田さん方のみ。金箔を挟んで保存する箔合紙を全国で唯一生産しているといい、繁男さんは「日本の伝統文化を絶やさないために、しっかり守り続けたい」と話している。(竹久祐樹)

【本誌HPに動画】

冷たい水に漬かりながらミツマタをもみ洗いする上田さん親子

⑤なぜこの時期に行うの？

(水温の低い冬場は雑菌が少なく、上質な和紙作りに最適な環境とされているから)